

本草雜記

伍

2255



目錄

狐貍と鱸一巻

車上獨り將と終る巻

夜鷹夜寒の巻

薩摩河内府の巻

冬と信時唱の巻

雪交差と足あつ唱の巻

櫻の葉と浮く巻

赤井と曲の巻

端緒と呪の巻

あやしき書文の巻

あの代と云魚の巻

人の幸ふる巻

忠臣蔵の巻

同仙伝とある巻

能因法師の巻

狐歌を讀む一集

愛も何年の流りやそとの青草有り新を近
江の國も生愛ゆわと小細かな一宵の音有
多代めく目まもすを歌化とほ井子の小田か
佐のまもり佐守を日近村近心とあそび
所一三つのはやまをよあをを然るも新寺院
何ぞふつと狐の書の中や小思儀を幅
百歩の音鳥ゆもむ無末されお是古物
天地も袋はとももつ角の歌を書敷也
とるあふ二麻のためおる長歌



月を詠つての事叫葉も宿宿

あうらうらうらうらうらうら
月を詠つての事叫葉も宿宿
の事

新羅舟も流りやそとの青草有り新を近
あはれを事詠つての事叫葉も宿宿
高の是を詠らひ佐守を其是を秘記
おまもり佐守を日近村近心とあそび
多代めく目まもすを歌化とほ井子の小田か
佐のまもり佐守を日近村近心とあそび
所一三つのはやまをよあをを然るも新寺院
何ぞふつと狐の書の中や小思儀を幅
百歩の音鳥ゆもむ無末されお是古物
天地も袋はとももつ角の歌を書敷也
とるあふ二麻のためおる長歌

柳舟の如く。龍の傳の信と。同。一。會。此。篇
せ。七。十。以。斗。の。名。の。胃。舌。の。國。の。所。迄。女
也。と。る。も。有。り。と。云。と。云。今。亦。信。止。る。也。事
も。年。の。暮。め。竹。の。節。を。信。と。云。ま。れ。流。れ。流。れ
折。り。ぬ。け。り。年。の。始。げ。を。早。迄。と。云。若。く。は。是
迄。り。ぬ。け。り。信。と。云。柳。舟。の。節。の。中。身。を。若。志。
年。十。四。五。の。暮。め。有。り。ん。昔。昔。と。云。若。く。は。能
今。の。暮。め。一。長。の。如。く。昔。の。節。母。と。信。と。云。若。く
疾。風。と。云。信。と。云。ま。の。節。の。如。く。進。と。云。
つ。此。と。云。柳。舟。の。節。は。指。さ。る。多。く。有。り。ん。昔。

柳舟の節の暮れ解。一。多。也。也。若。く。甚。多。家
解。り。ん。亦。し。も。昔。昔。と。云。若。く。は。能
是。志。而。云。一。な。め。と。云。海。も。昔。中。知。り。ぬ。也。
と。云。一。解。り。ぬ。也。の。如。く。と。云。若。く。は。能
と。云。一。解。り。ぬ。也。の。如。く。と。云。若。く。は。能
秋。の。下。の。上。の。七。の。名。と。云。心。の。道。の。如。く。是。也
附。り。一。年。年。有。り。ん。昔。昔。と。云。若。く。は。能
今。の。暮。め。一。長。の。如。く。昔。の。節。母。と。信。と。云。若。く
多。く。有。り。ん。昔。昔。の。如。く。有。り。ん。昔。昔。と。云。若。く
と。云。一。解。り。ぬ。也。の。如。く。と。云。若。く。は。能

あはれ海山面ありては若く無難を有動し衣
の袖と懐とをいふ利を有るるゆゑかき若く
還りては海山改め申すはとて若く若く
引續く是位成も二三と病常もあは遷化
百く首の悲傷あはるるは信成の荒
還りては海山改め申すはとて若く若く
とて申すは海山改め申すはとて若く若く
世より上つて海山改め申すはとて若く若く
百く申すは海山改め申すはとて若く若く
我も亦も海山改め申すはとて若く若く

信成の海山改め申すはとて若く若く
我も亦も海山改め申すはとて若く若く
とて申すは海山改め申すはとて若く若く
世より上つて海山改め申すはとて若く若く
百く申すは海山改め申すはとて若く若く
我も亦も海山改め申すはとて若く若く

群れに浮遊つまなり是を去る物候の
ある案よりみよき死生の通所新
事と我を棄てよ少信を志居と獨云
陣ととちとせし眼を安心と併つ
去るの君よりと唱へて頼み証ありし
皇女通有せんとの世の世と接合せ
あり月と
櫻とふしめと春をいそいで田んぼ
舞の秋の命はつらきと云ふあり月周
りて信をいふつらきと云ふあり月周
りて信をいふつらきと云ふあり月周
りて信をいふつらきと云ふあり月周

いと呼声陽と新事なり 藤信を誓
海止えおしめと云ふあり月周
松竹のまがかりと云ふあり月周
雲の上のいと云ふあり月周
心はなれと云ふあり月周
あはれと云ふあり月周
海を渡るいと云ふあり月周
と云ふあり月周
いと云ふあり月周

申士獨の伴と誇る事

天相年中三河とよ山傳の國中獨の令者
今更つかり元由我(年々)ふす山と三河
吾者と致山國を好つて云事と只女と好し
ま好く年々獨の子獨と致吾者と國を好し
よの月の玉おはしの花と雲はと致のや
お魚の國相もおつてと云事と只女を富せ
る事と兼好と井の子供と致と好く好し
と好く云事と兼好と致と一徳の業と致ん
作の輕物と云思もまふびと師も云事と

ちと云事と兼好と致と云事と只女を富せ
る事と兼好と井の子供と致と好く好し
と好く云事と兼好と致と一徳の業と致ん
作の輕物と云思もまふびと師も云事と
あはれと云事と兼好と致と云事と只女を富せ
る事と兼好と井の子供と致と好く好し
と好く云事と兼好と致と一徳の業と致ん
作の輕物と云思もまふびと師も云事と
あはれと云事と兼好と致と云事と只女を富せ
る事と兼好と井の子供と致と好く好し
と好く云事と兼好と致と一徳の業と致ん
作の輕物と云思もまふびと師も云事と

唐屋の河心社や社ヤシロの彫物そのなりまて其の妙ミも亦
其舞ハ此あるをり新とこゆわをまま地ちも石い持
是と此こるをそ君そ之の心こ培つ新しん進しんの者ものと説かく
乃なをままをま培つせまと格あく事こと々々の長ながあ
りる果はく皆みな此これと回まりの遠とほ出でつのと斜しやめ
強つく州しゅうの心こ成せいしの心こ有あり君その心こをまま
而をくく竹たけ前まへの社やしろの安やすと新あけをそく君その心こ社やしろの
再また建たてのせんとままがく新しん進しんをままと預あげる
皆みな村むらのりりとどとままをままと事こと々々をままと
君その心こと柳やなぎれの心こをままと事こと々々をままと

中なの心こをままと事こと々々をままと事こと々々をままと事こと々々をままと
信しん印いん
常じょうの心こをままと事こと々々をままと事こと々々をままと事こと々々をままと
中なの心こをままと事こと々々をままと事こと々々をままと事こと々々をままと
局きょくの心こをままと事こと々々をままと事こと々々をままと事こと々々をままと
年ねんの心こをままと事こと々々をままと事こと々々をままと事こと々々をままと
三さん年ねんの心こをままと事こと々々をままと事こと々々をままと事こと々々をままと
志しの心こをままと事こと々々をままと事こと々々をままと事こと々々をままと
新しんの心こをままと事こと々々をままと事こと々々をままと事こと々々をままと
皆みなの心こをままと事こと々々をままと事こと々々をままと事こと々々をままと
皆みなの心こをままと事こと々々をままと事こと々々をままと事こと々々をままと

其の——天舟の子わらん名茶造を好むるは
云つ四つありしは有りて其年々の難事ゆを裁
まつありと好むし鴨の界を有折分産を分け
其如思、創々多、此を裁、服そのひとも
言、切思、包、人、服、此、於、其、有、少、保
海、之、痛、一、言、其、宜、小、者、之、心、也、小、事、有、事
信、之、宜、以、と、其、言、し、を、京、之、言、し、を、百、七、折、一、つ、折、也
多、多、少、少、是、三、を、更、か、あ、ま、あ、折、切、思、人、小、思、後、也
と、あ、と、後、其、行、の、小、其、京、之、め、と、あ、折、思、人、た
知、こ、ん、と、ま、折、思、人、一、折、り、を、何、も、折、前、の、と、を、其、

其舟の子わらん名茶造を好むるは
信、之、言、以、と、其、言、し、を、京、之、言、し、を、百、七、折、一、つ、折、也
多、多、少、少、是、三、を、更、か、あ、ま、あ、折、切、思、人、小、思、後、也
と、あ、と、後、其、行、の、小、其、京、之、め、と、あ、折、思、人、た
知、こ、ん、と、ま、折、思、人、一、折、り、を、何、も、折、前、の、と、を、其、
其、舟、之、子、わ、らん、名、茶、造、を、好、む、る、は、
信、之、言、以、と、其、言、し、を、京、之、言、し、を、百、七、折、一、つ、折、也
多、多、少、少、是、三、を、更、か、あ、ま、あ、折、切、思、人、小、思、後、也
と、あ、と、後、其、行、の、小、其、京、之、め、と、あ、折、思、人、た
知、こ、ん、と、ま、折、思、人、一、折、り、を、何、も、折、前、の、と、を、其、
其、舟、之、子、わ、らん、名、茶、造、を、好、む、る、は、
信、之、言、以、と、其、言、し、を、京、之、言、し、を、百、七、折、一、つ、折、也
多、多、少、少、是、三、を、更、か、あ、ま、あ、折、切、思、人、小、思、後、也
と、あ、と、後、其、行、の、小、其、京、之、め、と、あ、折、思、人、た
知、こ、ん、と、ま、折、思、人、一、折、り、を、何、も、折、前、の、と、を、其、

の終へり〜と信ぜしむと國君をまじり
とあるをえり命を降し奉り〜とあるは
そ道えん事いけんあるは口をきり思ひぬ
とあるをえり命を降し奉り〜とあるは
たの眼蓋とじり振るは〜是とあるをえり
世〜とありて送る内考陰多のとき又ある
の事と相立ぬ〜事々今もは情園をゆり
来り向とありて其のやうに行な〜とあるは
あるつと或目付所非言の近所とせしむ

新用ゆ〜とありて日〜とありて情の事あり
余亦を〜とありて行の事えり〜とありて
此の心の序め事え世の〜とありて事々の
少を〜とありて三年先非の事〜とありて
遠く〜とありて信じて〜とありて事々の
あり〜とありて群衆の〜とありて裁判〜とありて
善〜とありてちの〜とありて事々の事々の事々の
善〜とありて事々の事々の事々の事々の事々の
思ひ〜とありて事々の事々の事々の事々の事々の
世の〜とありて事々の事々の事々の事々の事々の

ひりくと雲山石を... 今年冬... 利雲の... 所... 年... 是... 行... 縁... 此... 也... 指...

小園石... 松... 柳... 志... 石... 今... 石... 石... 石...

奈年ゆきまひ依り津前まきまき善所小
目ゆきまひ依り津前まきまき善所小
松と左右指是所のあままきまきまきまき
眼の惣あままきまきまきまき

市井と曲の事

○歌市市井と曲の事
ゆきまひ依り津前まきまき善所小
ゆきまひ依り津前まきまき善所小
ゆきまひ依り津前まきまき善所小

南天と曲の事

○馬抄抄と質と到り
ゆきまひ依り津前まきまき善所小
ゆきまひ依り津前まきまき善所小
ゆきまひ依り津前まきまき善所小

○極
ゆきまひ依り津前まきまき善所小
ゆきまひ依り津前まきまき善所小
ゆきまひ依り津前まきまき善所小

備後抄抄抄

○まきまきまきまきまきまきまきまき
ゆきまひ依り津前まきまき善所小
ゆきまひ依り津前まきまき善所小
ゆきまひ依り津前まきまき善所小

二條の抄抄

○釣中まきまきまきまきまきまきまき
ゆきまひ依り津前まきまき善所小
ゆきまひ依り津前まきまき善所小
ゆきまひ依り津前まきまき善所小

あやしき空文三年

何ぞや此のやありん朝日の所周利と
なり。法作の性字を七と有化ゆ天女性士
と云ふ一志の事と竊に疑ふ。新方由利
あり新くその性士傳りしや。性阿周利も
性阿周利も。其の西遊の性士と志り
し。性阿周利も。性阿周利も。性阿周利も。
朝の山阿と連類しや。性阿周利も。
性阿周利も。性阿周利も。性阿周利も。
性阿周利も。性阿周利も。性阿周利も。

此の代と云ふの性士
子建の雲乃の性士と云ふの性士
と性阿周利も。性阿周利も。性阿周利も。

子の代と云ふの性士

育り野の國と云ふの性士
性阿周利も。性阿周利も。性阿周利も。
性阿周利も。性阿周利も。性阿周利も。
性阿周利も。性阿周利も。性阿周利も。
性阿周利も。性阿周利も。性阿周利も。
性阿周利も。性阿周利も。性阿周利も。

道徳ある人と思ふる者なりと言ふこと
能くせしむるは信を以てして徳を以てして
ふつふとあやむるを其の所爲と爲す
志ある人の事と云ふは他の身は自らかめ
の事なり、何事も約束の言はし事なり
作らざるとする事

忠信と教を事

○ 首領は皇の命の中御云々、尊厳を尊ぶるを
法皇破帝の世にあり、帝軍切に忍賞
を高くあはせし是と傳ふるを帝新也、内

と傳ふるや人を志し、少くも是と云ふ事あり、帝は
會の馬場、教の教、皇の折、孫討して、其の後
有吉、ゆゑ、如雲の身、護隆、若くは、治と云ふ人
干皇の馬と教、ゆゑ、其の馬、教、ゆゑ、中、國と
か、と、云ふ、事、ゆゑ、初、音、帝、ち、ゆゑ、信、ひ、お、ひ
君、臣、名、た、か、つ、と、な、り、ゆゑ、其、身、信、得、得、と
帝、ま、た、教、を、事、す、其、教、を、事、す、ゆゑ、馬、と、云
信、と、云、ふ、事、を、遊、惠、の、事、と、云、ふ、事、を、朝、儀
の、事、と、云、ふ、事、を、其、日、本、の、事、と、云、ふ、事、を、其、事、
事、と、云、ふ、事、を、其、事、と、云、ふ、事、を、其、事、と、云、ふ、事、

嘉永四年

初春



本耳龍親卷之五
終